

コラム Roschier 法律事務所訪問



Roschier 法律事務所は、フィンランド最大の法律事務所で、フィンランドのヘルシンキとスウェーデンのストックホルムに事務所があり、45人のパートナーと285人のアソシエイトが働いています。1936年に設立し、1940年代にはビジネス分野に集中する方針をとりました。1980年に、最初の女性の弁護士が事務所に加わっています。1992年には20名程度の事務所でしたが、2002年には、100人の弁護士、2010年には、160人の弁護士が勤務するようになりました。この事務所におけるジェンダー平等実現のためのプログラムについての説明を受けました。その概要部分は以下のとおりでした。

伝統的には、男性優位の産業でしたが、変化は現れており、まず法学部の卒業生は、2017年で、フィンランドは63%、スウェーデンでも63%です。Roschierの新規採用アソシエイトは、フィンランドでは女性83%男性17%、スウェーデンでは30%女性70%男性です。もっともシニア・アソシエイトにおける離職率は女性の方が高いです。とはいえ2018年シニア・アソシエイトに任命されたのは、70%が女性です。パートナーを除いた弁護士及び実務家を見れば、フィンランドでは58%が女性で、スウェーデンでは、41%が女性ですが、事務所のパートナーは、女性が18%男性が82%です。

多様性と平等が1996年に事務所のバリュー（団体を統合する価値を定めたもの）に明文で書き込まれ、2020年には戦略的ロードマップにも組み込みました。

また多様性と平等のために、ストックホルムの商工会議所や10のストックホルムの法律事務所とともにプロジェクトを進めています。事務所の被用者に対する調査においてすべてのスタッフから情報を集めて、その結果についてパートナー・アソシエイト・職員で討議し、そこで得たものはさらに次への基礎とします。意識されない偏見については、パートナー等に対して意識を高めるためのトレーニングを行いますし、2017年9月のパートナーの会合では主要な議題として扱いました。2018年と2019年には、偏見なき報酬とキャリアサポートについて取り組みました。2017年から2018年、2018年から2019年には、偏見なき採用、バイアス・フリー・リクルートメントをメインテーマに取り組みます。

以上のほか、長時間の質疑にも快く応じてくださいました。事務所のすべての場面で繰り

返し多様性と平等の実現について全員参加で問うという継続的取り組みがされているということであり、そこまでしないと実現はしないという教訓を得ました。
事務所訪問にあたってはフィンランド弁護士会会長 Jarkko Ruohola 氏に大変にお世話になっています。



以上
(本多 広高)